

宮古湾で採集したドクウロコイボダイ類について

藤田惣吉・西野耕一郎
(岩手県立宮古水産高等学校)

On some fishes of the family *Tetragonuridae* collected in
Miyako Bay, Iwate Pref., Japan

Soukiti HUZITA and Kōichirō NISHINO
(Miyako Fisheries High School of Iwate Prefecture)

阿部(1953)によれば *Tetragonuridae cuvieri* はウロコイボダイとも呼ばれたが他種との混亂をさけるためドクウロコイボダイと改名したという。

この魚は世界各地の外海に分布しているといわれるが我国ではすくなく北海道の北西岸沖、小名浜、真鶴及び鳥島沖で数尾得られた記録があるにすぎない。

なお近似種として *T. atlanticus* と *T. pacificus* が報告され前者は和名をツマリドクウロコイボダイと呼び我国で2尾得られているという(T. ABE, 1955)。

著者等は1963年12月6日宮古湾高浜の海岸で *T. cuvieri* を1尾入手した。約2ヶ月前の10月13日に波高約1mの津波がこの湾に押寄せたことがあり、おそらくそれによる海況異変で外海から湾内にまぎれこんできたものと考えられる。

又これとは別に岩手県立宮古水産高等学校に *T. atlanticus* 1尾が保存されていたのでこゝと一緒に報告する。この標本は宮古近海で入手されたものと思われるが年月日は不明である。魚体の測定は主に西野が行い本文のとりまとめは藤田があたつた。

報告に先立ちこの発表を許可された佐々木千秋宮古水産高等学校長及び有益なる御指示を与えて下さった阿部宗明博士に深甚なる謝意を表する。

A. 宮古湾の高浜海岸で得られた *Tetragonurus cuvieri*

この標本の主な測定値はTable 1に示したが尾又体長316mm, 標準体長297mmで標準体長を100とすれば頭長20.2, 眼径4.0, 吻長6.7, 尾柄高4.7, 両眼間隔5.7, 体高14.8, 体巾11.4, 最長左胸鰭条長6.7である。

各鰭条は第一背鰭17棘条, 第二背鰭9軟条, 臀鰭1棘11軟条, 胸鰭11軟条で側線鱗数は鰓孔上端から尾柄部の隆起前端まで102, 側線上方の鱗数は7を数えた。又眼窩縁にある溝は明らかなものが左右とも17ある。

下顎は上顎よりもわずかに短かく口蓋には1列の犬歯が並びその両側に少数の歯がある。

舌は狭くそしてくぼんでいる。

下顎歯骨はきわめて高くその上部にある犬歯は薄い膜で被われている。

上顎歯は比較的軟弱な前上顎骨の内側に薄い膜で被われて存在するが下顎歯よりもその発達

Table 1. Measurements of *Tetragonurus cuvieri* and *T. atlanticus* from Miyako, Iwate Pref., Japan.

Locality	Date of collecting	Species	Fork length (mm)	Standard length (mm)	Greatest depth of body (mm)	Least depth of caudal peduncle (mm)	Length of head (mm)	Diameter of eye (mm)		Length of snout (mm)	Interorbital breadth (mm)	Least depth of preorbital (mm)	Number of scales		No. of pits on hind rim of orbit	Length of left longest pectoral fin-ray (mm)			
								left	right				in lateral line	above lateral line	in front of dorsal origin	between 1st and 2nd dorsal origins			
Miyako	Dec. 6, 1963	<i>Tetragonurus cuvieri</i>	316	297	44	14	60	12	12	20	17	10	102	7	28	36	17	17	20
near Miyako ?	?	<i>Tetragonurus atlanticus</i>	269	251	43	10	64	17	17	18	17	11	90	6	25	30	15	12	35

がよい。

頬鱗は眼の後方から規則正しく弧状に並びその数は5列である。

鱗は菱形で規則正しく斜横列をなしきわめて剝離し難い。

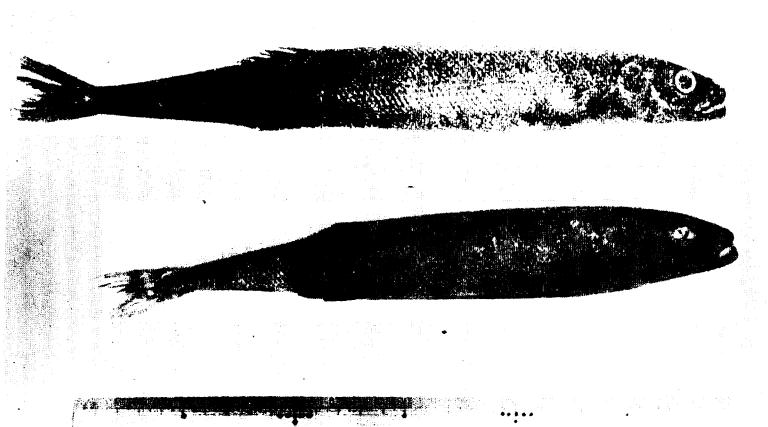


Fig. 1. *Tetragonurus cuvieri* (above: standard length 297 mm.) and *T. atlanticus* (below: standard length 251 mm.)

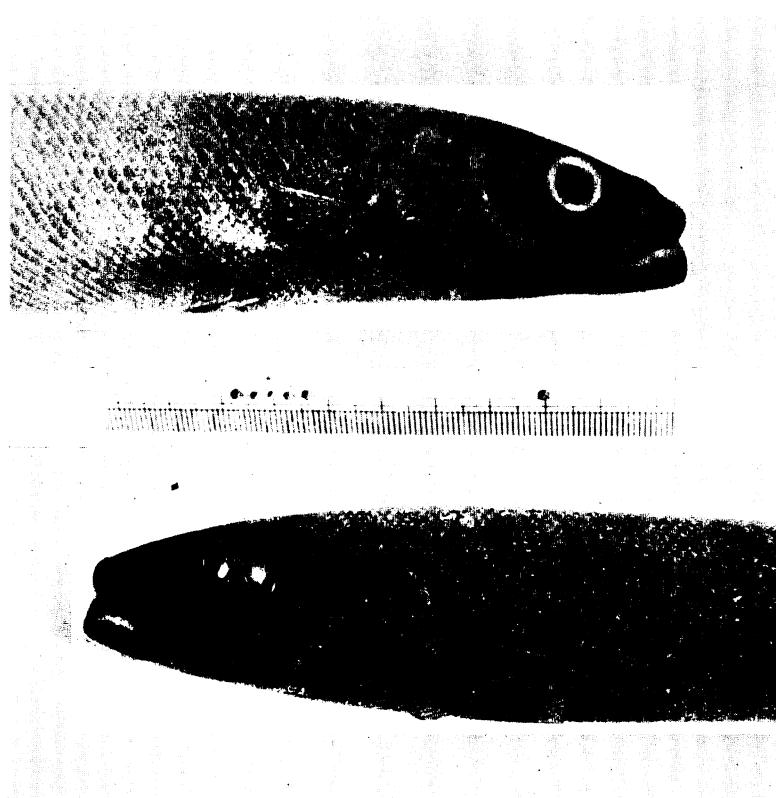


Fig. 2. Right side of *T. cuvieri* (above) and left side of *T. atlanticus* below.

Fig. 3. Head of *T. cuvieri*.

鱗の隆起線数は剥離しがたいため標本のき損を考慮して計数を略した。

尾鰭基底各側には鱗で被覆された軟弱な2本の縦立隆起線がある。

眼径は12 mmで頭部眼後長の約2/5である。

体色は黒褐色で生時にはその色彩が濃く阿部の記載とは異なり褐色がとつた小さな点もみられない。

B. 標本室に保存されていた *Tetragonurus atlanticus*

この標本の尾又体長は269 mm、標準体長251 mmで、標準体長を100とすれば頭長25.5、眼径6.8、吻長7.2、尾柄高4.0、両眼間隔6.7、体高17.1、体巾10.7、最長左胸鰓条長13.9である。

背鰓は第一背鰓13棘条、第二背鰓9軟条で胸鰓は前記の *T. cuvieri* にくらべてその先端は第一背鰓の第四棘条まで達している。

鱗は菱形で規則正しく斜横列をなし側線鱗数は90、側線上方の鱗数は6である。

頬鱗は上顎主骨後端より規則正しく弧状にならびその列数は15を数えた。

舌は *T. cuvieri* にくらべて広く先端もやゝ円い。そして眼窩縁にある溝は左15、右12である。

眼は *T. cuvieri* にくらべて大きく眼径は17 mmで頭部眼後長のおよそ2/3である。

体色は永く保存されていたためか茶褐色である。

文 献

田中茂穂・阿部宗明 1955：図説有用魚類千種、p. 288、森北出版。

富山一郎・阿部宗明・時岡隆、1958：原色動物大図鑑 II. p. 203、北隆館。

阿部宗明、1963：原色魚類検索図鑑、p. 102、北隆館。

ABE, T. 1955: New, Rare or Uncommon Fisher from Japanese Waters. V. Japanese Journal of Ichthyology, vol. iv nos. 1/2/3, pp. 115-118.

Summary

The writers obtained an adult example of *Tetragonurus cuvieri* in Miyako Bay on December, 6 1963.

We suppose that it came into the Bay from the open sea because of tidal wave on October 13, 1963.

An adult example of *Tetragonurus atlanticus* had been preserved for a long time at Miyako Fisheries High School.

We suppose that it was taken near Miyako Bay, but we don't know the catching date.